松井田八幡宮祭禮記

附　松井田宿よもやま話

小林二三雄 著

みやま文庫

序　文

松井田八幡宮は、御祭神誉田別命（ほむだわけのみこと）、息長足姫命（おぎながらたらしめのみこと）、玉依姫命（たまよりひめのみこと）の三柱を祀り、創立年代は不詳であるが建久八年（一一九七）鎌倉の源頼朝大将が立ち寄った記録がある。

慶安元年（一六四八）に徳川三代将軍「家光公」より御朱印地一三石六斗を給った。

この本殿の建立は、社伝では寛永年間（一六二四）と伝えている。

建物は三間社流造で正面三間（一一・五三m）、側面二間（一・六m）の銅板葺で幣殿、拝殿がある。正面三間には各間に板扉を設けている。材質は、ほとんど欅材で、組物・木鼻・蟇股・海老虹梁の様式は複雑化した定型化は見られない簡素な力強いものである。

また社殿周辺に敷き詰められた敷石は、配石、敷き方に独特な技巧を凝らしており、後方の石垣の組み方とともに独特の景観を構成し、一層境内の神聖さを倍している。石材は羽根石山の輝石安山岩で鉄平石状になっている。

社殿は創立以来、数回の改修工事がおこなわれていて、この祭禮記には大変詳しく、改修工事の有様が記録されていて、このことでも大変貴重な記録が残されているのである。

祭禮記は宝暦六年八月（一七五六）に祭祭の規定を定めてから明治三十年九月（一八九七）まで一四一

年間の祭禮の有無やその時代の有様を刻明に記録していて大変興味深いものである。

また、この記録の基本的な思考は松井田の住民による信仰心であろう。

先人達の思いを込めたこの祭禮記を心に深く銘記し、祭神への崇敬と松井田町を愛する郷土愛を益々振い立たせて頂きたいものと心よりお願い申し上げまして序文と致します。

松井田八幡宮名誉宮司　曽根恒季

宮司　渡邉　修

はじめに

このたび八幡宮祭禮記が出版されることになったが考えてみると十三年前に平成の大改修が行われて既に十三年の月日が流れているのである。平成の大修理について、神社総代だった私の父が何度か県庁に行き、文化財保護課に改修をお願いしたことがあった。

その願がかなったのは父の没後であったが、この改修工事は松井田町民にとっても大きな明るい希望であったことは疑いないことであろう。そして現在、この祭禮記の宝暦六年（一七五六）から明治三十年（一八九七）の一四一年間の松井田宿（町）の大きな住民のうねりにも似た流れを感じとることができる。

しかし、その底流にあるものは何時も松井田町が大好きだという郷土愛に強く結びついている大きく強い流れではないだろうか。

八幡宮祭禮記を読んで本心からこのように感じました。多くの町民の皆さんも全く同じ考え方だと思います。矢張り一軒の家には大黒柱があることが必要ですし、町には町の心を一つにする大きな支柱が必要なのだと思います。この八幡宮祭禮記の意義を心にとめて発展する松井田町の基盤とすることを考えてみたいと思う次第です。古くから受け継がれてきたふるさとへの心を奮

いたたせ、更なる向上のための一助として大いに役立つ記録であると思い皆々様におすすめ致す次第です。

なお、この祭禮記の原本を永らく保存して下さった小林貞夫様には厚くお礼申し上げます。発刊にあたり一言お祝い申し述べます。

神社世話人

氏子総代　小栗　旺

松井田八幡宮祭禮記

附　松井田宿よもやま話

総目次

序　文　　松井田八幡宮名誉宮司　曽根恒季
　　宮司　渡邉　修

はじめに　　神社世話人　氏子総代　小栗　旺

祭禮記……一
事件簿……八九
松井田宿よもやま話……一三三
八幡宮　天候記……一六一
松井田年表……一七七
八幡宮祭禮記について……一八六
参考文献……一八八
著者略歴